

ずっと大府
もっと大府

大府市議会議員
ふじもと宗久
政治活動新聞

令和5年秋号



市政・地域の情報、日頃の活動を発信中
お友だち登録をお願いします。



岡村市長、市政3期目の決意
9月定例会一般質問で質す



来春(令和6年3月)に、大府市長選挙が予定されています。そこで9月定例会の私の一般質問では、岡村市長ご自身の市政3期目への意思と決意について質問させていただきました。
岡村市長は、「デジタル化への対応、カーボンニュートラルの推進、バイオフィリンの里の実現、警察署誘致、新たな少子化対策など、課題解決に真正面から取り組み、本市の新たな未来を切り拓き、次の世代へ引き継いで行くことが私の使命と考えております。そのため、二度(みたび)市民の皆様の審判を仰ぐ決意を固めたところでございます」と答弁されました。
私も、岡村市長の3期目に大いに期待したいと思います。

令和4年度一般会計決算認定
議会最終日に賛成討論

議会最終日に賛成討論

親和クラブを代表して以下のように討論いたしました。
「新型コロナ対策にかかわる緊急対策費をはじめ、国や県からの交付金・補助金を効果的に組み入れた補正予算を実にタイムリーに計上されました。そして、そのような突発的な出し入れの多い状況にありながら、健康、福祉、子育て、教育、産業、環境、安全などの各分野で、当初予算とし



決算書の内容は、当会派独自の検証により、ほぼ満点の内容であると認定しました。

親和クラブ行政視察
まちづくり・教育の先進事例
スマートシティ
神奈川県藤沢市



藤沢 SST(Sustainable Smart Town)は、ICTの活用で、自動化、省エネを実現する一方、住民同士のコミュニティ活性化の取組も構築

国内大手家電メーカーから藤沢市に対し、広大な工場跡地にエコタウン構想を提案したこと。端を発します。全ての戸建て住宅に太陽光発電システムと蓄電池を設置。自動車や自転車のシェアリングシステム、見守りカメラ、自動配送ロボットも配備。個々のサービスやシステムの具現化はマネジメント会社が担当し、住民への情報提供、ショッピング、藤沢市や周辺自治会との交渉などを行ってまいります。無電柱化の取組もなされていきました。
生涯活躍のまちづくり
千葉県旭市
「誰もが居場所と役割を持つ『ごちやませ』コミュニティづくり」の推進を目的として、大

手商業企業が事業主体となり、同社経営の商業施設に多世代型交流施設「おひさまテラス」を整備。これを中心に、健康ゾーン(フィットネス等)、商業ゾーン、居住ゾーン(高齢者向け住居、施設等)があります。おひさまテラスではキッチンスタジオ、クラフトルーム、音楽スタジオ、貸スペース、保育施設等、誰もが利用したくなるような工夫は、大変参考になりました。
小中一貫教育
東京都足立区
「中1ギャップ」が起りにくく、不登校児童生徒が極端に少ない。
東京都足立区立新田学園



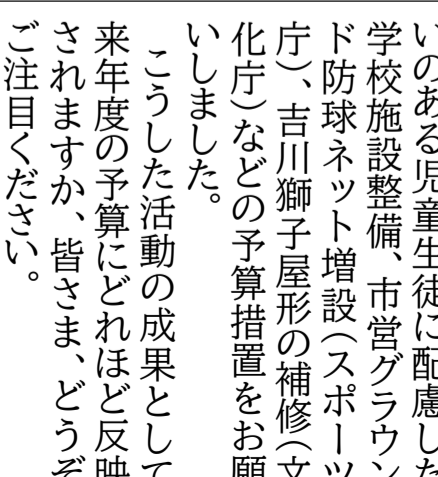
「中1ギャップ」が起りにくく、不登校児童生徒が極端に少ない。
東京都足立区立新田学園

岡村市長を団長に、日高あきら県議と我々親和クラブで国への陳情団を結成、各省庁に大府市への補助金・交付金を要望してまいりました。
国土交通省に対しては、市道養父森岡線と共和駅東線

の整備、市道の舗装修繕と橋梁補修、公園(深廻間、桐山、羽根山)の遊具の更新にかかる費用を要望しました。
文部科学省では、小中学校のエレベーター、バリアフリートイレ、スロープといった障がいのある児童生徒に配慮した学校施設整備、市営グラウンド防球ネット増設(スポーツ庁)、吉川獅子屋形の補修(文化庁)などの予算措置をお願いしました。
こうした活動の成果として来年度の予算にどれほど反映されますか、皆さま、どうぞご注目ください。



岡村市長と共に、消防庁長官に救急車両購入補助金を要望し、即時承認。早速、9月定例会で補正予算を計上できました。(消防庁)



鈴木じゅんじ代議士
総務大臣で初入閣

また、小学部と中学部の教員が同じ職員室を使用することにより、長期にわたって子どもの様子を共有でき、且つ教員の質の向上にも役立っているとのことでした。
社会環境が変化する中で、教育現場でも新たな取組が必要なのではないでしょうか。

9月議会での一般質問

『有機農業と地域振興の取組について』

サステイナブル(持続可能な)健康都市とゼロカーボンシティ実現のため、「有機農業と地域振興の取組について」質問に立ちました。

本市では、国が策定した「みどりの食料システム戦略」の趣旨に則し、行政面では有機農業に関する講演会の実施、「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」への加入、公立保育園や小学校での有機野菜の試行的導入などの取組が進められてきました。



日高あきら県議も参加
私も汗だくになって
田んぼの草刈り体験

有機野菜、有機農業には懐疑的な見方があることも現実ですが、食料自給率の問題、地産地消による運搬リスクの軽減、環境対策といった観点から、少なくとも「環境負荷低減」といった取組は、将来に向けて避けられない課題であろうと私は考えます。

そういった点で、今後有機農業について強い関心をもつて取り組んでまいります。



「みどりの食料システム戦略」とは、国内の農林水産業の生産力強化や持続可能性の向上を目指し、国が策定した食料生産の方針(衆議院第一議員会館にて)

『有機農業をめぐる事情』 農水省からのレクチャー

おおぶニツクのWAが出席している「オーガニックEXPO」(東京)の視察後に、農水省担当からの講義の機会をいただきました。「みどりの食料システム戦略」についてといったテーマです。当方からの質問が絶えず、予定時間を大幅に超過してしまいましたが、学んだことを糧にして、大府市の農業を仲間とともに考えてまいります。

まず地元の元森岡自治区、石瀬自治区、石ケ瀬コミュニティの安全、防犯、環境等の活動を最優先に取り組んでいきます。最近では、石ケ瀬川、矢戸川沿いの清掃、交通事故ゼロの日の見守り、防災支部総点検がありました。

私的なボランティアグループ「階(きざはし)」で行っている



安全環境推進クラブ階(きざはし)「親子防災教室」DAIWA 防災学習センターにて

ボランティア活動、イベント等 地域での活動も積極的に ボランティア活動として

大府駅西での横断者優先運動や、地域住民向けに独自で開催される安全教室、防災教室にスタッフとして協力させていただきました。

個人としての活動では「勝手に見守り隊」「勝手に通学団」と称して、子どもたちの通学時間帯の安全活動を継続して行っています。



大府夏まつりで弾けました(笑)

地域のイベントとして

コロナ禍も下火状態となり、市内各所で行われるイベントも制限なしで開催されるようになり、時間の許す限り、参加いたしました。

中でも石ケ瀬夏まつり、大府夏まつりは大いに楽しませ

これまでは私の方から声がけをしていたのですが、このところ、私の背中越しに、或いは道路の反対側から「おはようございます」と挨拶してくれる方がおられます。私にとって、至上の喜びであり、励みです。

おおぶニツクのWA オーガニック産地育成事業

「おおぶニツクのWA」というグループがあります。大府市で有機の農業の推進を目的に、本年結成されました。有機農業者、新たに有機農業に取り組み農業者、市民団体(Farm to table)、そして市で構成され、本年度、農林水産省の補助事業であるオーガニック産地育成事業を活用し、米や野菜の有機栽培の実証や担い手の育成などの取組を進めています。



「おおぶニツク」は、地名(大府)とオーガニックを合わせた造語です

体の方々が「誰がやってくれなくても自分たちでやり抜く」という気概と行動力です。本市では「今後この事業をシティプロモーションの柱の一つとして取り組んでいく」としており、協働のまちづくりの新たな形としても注目です。

都市計画道路大府東浦線 半月町一丁目東交差点〜大府ウツ線 来年春に供用開始へ

ここ数年、地元森岡町、半月町にお住まいの方のご心配の種でありましたこの区間の工事が、県の予算前倒し措置により急速に進展しています。工事の進捗を確認すべく、日高県議の取組計らいで現場を視察してきました。

県の説明により、現地在は石ケ瀬川に架ける橋の工事を行っており、この区間の供用開始を令和6年3月に予定しているとのこと。これにより、ウツ交差点から



元来、都計大府東浦線は、大府ウツ線よりさらに北進し、木山に抜けるような計画です。大府市西部を南北に縦断する主要幹線の事業化が待たれるところです。

「継続はチカラなり」 街頭あいさつ活動



大府駅西交差点 毎週月曜(雨天翌日)6時半〜8時

「継続はチカラなり」街頭あいさつ活動

本紙、発行時期変更のお知らせ

皆さまのお宅に直接お届けしております「ふじもと宗久政治活動新聞」は、本紙で第9回目の発行となりました。これまで年2回、1月と7月の発行を原則としておりましたが、お届けする時期の暑さ寒さが大変厳しく、自身の健康と体力を考慮し、今回より4月と10月の発行・お届けとさせていただきます。

今後、皆さまにとりましてできるだけ身近な話題を、わかりやすくお伝えしてまいります。お時間のあるときに目を通していただけ、ご意見などもお寄せくださいますようお願いいたします。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。